

平成29年度 「学校評価」 取り組み計画と結果考察

学校法人 松ヶ谷学園
ふたば幼稚園

園の教育活動や園運営について目標とすべき課題を設定し、その達成状況を話し合いながら自己評価をし、組織的かつ継続的な改善を図る。また子どもたちの日々の活動に対して学校関係者による評価を受けるとともに評価結果を共有することにより、保護者や地域住民の方々の理解と協力を得て、幼稚園・家庭・地域の連携体制による幼稚園づくりを進めることを目的としています。

(I) 建学の精神

「梅檀はふたばより香ばし」

子どもたちの育ちには幼児期の（ふたばの時期）の環境が最も大切

(II) コンセプト

「ひとつ芽生えてまたひとつ」

身の回りの事象に興味・関心をもつことが、次へのステップアップに最重要

(III) 教育目標

- ◆みんな仲良く （時には喧嘩も必要、そして相手を認めることの大切さを知ろう）
- ◆強い心と体で （強い意志をもって行動することは強い体をつくること）
- ◆最後までやりぬこう （途中で投げ出さず最後までやりぬき、完成の喜び味わおう）

上記（I）～（III）を根底において、将来を担う子どもたちを教育することを目指しています。

(IV) 平成29年度 園の重点目標

<ul style="list-style-type: none"> ◆相手の気持ちに気付き、心から「ありがとう」「ごめんなさい」が言える子になろう。 ◆一人ひとりの個性を大切にし、それぞれが発想したことを伸び伸びと表現する。

(V) 平成29年度 各学年の重点目標

	重点目標	達成するために取り組むこと	結果
満3歳児	◇どんな時に「ありがとう」や「ごめんなさい」という言葉を使うのかを知る。 ◇一人ひとりが安定した気持ちで園生活を送る。	◇絵本や紙芝居を使って言葉の意味を知らせたり、保育者が声に出して伝えることで子どもたちも真似をして身に付くよう促す。 ◇スキンシップを取りながら、一人ひとりの欲求を受け止め保育者と信頼関係を築けるようにしていく。	◇何度も繰り返し見せることで、どの場面で使うべきか理解し始めることができた。 ◇子どもたちも自然と「ありがとう」や「ごめんなさい」が言えるようになった。 ◇得意な事を褒められることによって自信が付き、さらにやってみようとする姿がみられた。
年少組・3歳児	◇「ありがとう」「ごめんなさい」という言葉の意味を知り、自分から言えるようになる。 ◇個性を発揮し、自分が思ったように表現することを楽しむ。	◇何かをしてもらったりした時に「ありがとう」と相手に自分から伝えられるよう知らせ、またその場面ではどう伝えればいいのか言葉がけをする。 ◇ごっこ遊び・製作などを通し、思ったことを表現できるように配慮し、表現力を伸ばす。	◇必要に応じて自然に「ありがとう」「ごめんなさい」が言えるようになった。 伝える時の気持ちも理解し、子どもたち同士で声を掛け合う子も出てきた。 ◇指や筆など思い思いの材料や方法で好きなように描くことができ、十分に楽しめた。 ◇図鑑や写真付きの本から、それぞれが感じるものが異なるため、個性のある作品が出来た。

年中組・4歳児	◇相手の立場に立って考えることで、思いやりの気持ちを育む。 ◇自分のイメージを膨らませ好奇心を持って生き生きと表現することを楽しむ。	◇生活の中で友だちの気持ちに気付けるよう意識して、具体的な言葉がけをするようにする。 ◇視覚的にイメージしやすいように活動の導入・言葉がけを工夫する。	◇自分のことを中心に考えていた子も、「ありがとう」「ごめんなさい」と伝えられるようになった。それ以外の言葉も相手のことを考えて言えるようになった。 ◇初めは戸惑う子もいたが、保育者の言葉がけにより、伸び伸びと表現できるようになり、自分のやりたいという思いが表れてきた。
年長組・5歳児	◇相手の気持ちを自分におきかえて考え、ありがとう・ごめんなさいを自ら言えるようになる。 ◇自分の気持ちや考えを表現しながら、友だちと協力し、共に活動する楽しさを味わう	◇相手の気持ちを考え、自分ならどう思うのか問いかけ、気付けるように言葉がけをし、また何がいけなかったのかを気付き、相手に伝えられるよう促す。 ◇子どもたちの発言の意図を考え認め、みんなで遊びや行事での達成感や楽しさを味わえるように配慮する。	◇相手を自分に置き換えたときにどう思うのかを考えられるようになった。 ごめんなさいの言葉の前に、自分の気持ちを付け加えて伝えられるようになった。 ◇状況を考えて、自ら感謝の気持ちを伝える姿がみられるようになった。 ◇お互いの意見を認め合ったり、意見が合わないときがあっても、全員で協力したり、役割分担をしながら、自分の考えや気持ちを表現できるようになった。

(VI) 取り組みへのステップ

① 今年度の重点目標・自己評価項目の設定	年度初め
② 重点目標・自己評価項目の達成に向けた取り組み	年度初め～3学期末
③ 学校関係者評価委員との関わり	期中
④ 自己評価の実施	12月末・3月末
⑤ 学校関係者評価の実施	3月中旬
⑥ 該当年度決算書と学校評価結果報告書の作成	4月下旬
⑦ 事業の取り組みと会計処理について公認会計士の監査を受ける	5月下旬
⑧ 学校評価報告書をホームページにアップする	6月上旬

(VII) 教員の自己評価項目及び結果

評価結果とその項目数

	評価結果とその項目数					評価
	項目数	A	B	C	D	
1、園の基本姿勢についてのチェック	10	2	5	2	1	B
2、教師としての資質や能力・良識・適性、保護者への対応のチェック	35	14	15	5	2	B
3、保育の在り方・幼児への対応のチェック	30	7	15	6	2	B
4、地域の自然や社会との関わり、研修と研究のチェック	20	3	8	6	3	B
5、保育の計画性のチェック	5	0	3	2	0	B

上記は各項目に対する自己評価の結果を集計したものである。

(VIII) 2回の自己評価を終えて

職員それぞれが年間2回の自己評価を通して職員同士の連携や資質向上、安全管理の強化や施設設備の充実等に真剣に取り組む、園として、また学年の重点目標の指導についてはおおむね達成できた。自己評価の各項目の集計結果、十分でなかった点、特に評価の低かった項目については今後取り組むべき課題として継続的に取り組み、各課題をクリアできるように各自努力し、その努力が実って、質の良い保育を行えるように取り組んでいきたい。

財務状況：監査法人の監査を受け、予算・事業ともに適正に実施されていると認められている。

◇日常の保育等についての学校関係者・評価委員、評価と意見◇

評価者（1）

◇行事について

年間を通して行われる行事はどれも内容が素晴らしく、子どもたち・先生の努力が伝わってきます。
運動会は子どもたちの健康面を配慮して午前中開催とし、子どもたち・保護者の負担への配慮を感じます。

◇日常の保育について

少人数のメリットを生かし、アットホームな雰囲気を感じます。異年齢児保育や、同学年同士のクラスでの交流など、たくさんの友だちと触れ合う機会があり良かったと思います。

◇園周辺の環境について

自然物や地域の人との関わりなど、園周辺の環境を保育に取り入れてほしいと思います。また植物の生長過程を観察したり、花や葉っぱなどの自然物を使った製作や遊びを取り入れてほしい。

評価者（2）

◇日常保育について

色々なことが経験でき、子どもの苦手な事や興味のあること、出来るようになったことを幼稚園の活動を通して知ることができました。

◇自由参観について

回数が以前に比べて少し減ってしまい残念です。折り紙や製作の活動は、テラスから子どもたちの様子が見えづらいので、動きのあるものがみたいです。保護者の方の私語が多いのが残念です。

◇預かり保育について

働く保護者にとって預かり保育時間の延長、長期休暇中の預かり保育実施日数の増加が助かりました。

評価者（3）

◇避難訓練について

在宅時の地震の際に机の下に入り、身を守る姿を見て、幼稚園での避難訓練の成果だと感じました。

◇日常保育について

保育の中ではその子に応じた対応で、同じ活動に取り組む力を育ててくれ、苦手なことにも挑戦しようとする気持ちが芽生えました。